

HARBOUR SET

ウォーターラインシリーズ(情景アクセサリ)

クレーンセット

接着剤別売

起重機・工場・係留ブイ・浮棧橋・油タンク

静岡
協同
組合
模型
教材
製造
材

クレーンセットは、下図の様な軍港のディオラマなどに使用できます。起重機は岸壁、ドックの横に設置されていました。起重機には砲塔など吊し、ドック内には半完成品の戦艦や、木などで船底を再現した巡洋艦などを入れた造船風景、浮棧橋による応急修理風景、係留ブイにつなげた空母などのディオラマを作ってみましょう。又タグボートセットと合わせて新しく展開するウォーターラインシリーズを楽しみましょう。

塗装について 〈クレーン〉大戦中、基本的には日本軍艦船体と同じ(灰色)で塗られていましたが、時代情勢により錆止塗料(赤茶)又は、くすんだ(緑色)の濃淡によるカモフラージュが施こされていた時もありました。

〈工場〉屋根は大半がスレート張り(灰色)で、側面はモルタル(明るい灰色)で塗られていました。窓はガラスを使用しているが、すす等の汚れで(暗い灰色)となっています。又コールタール

等で塗られていました。

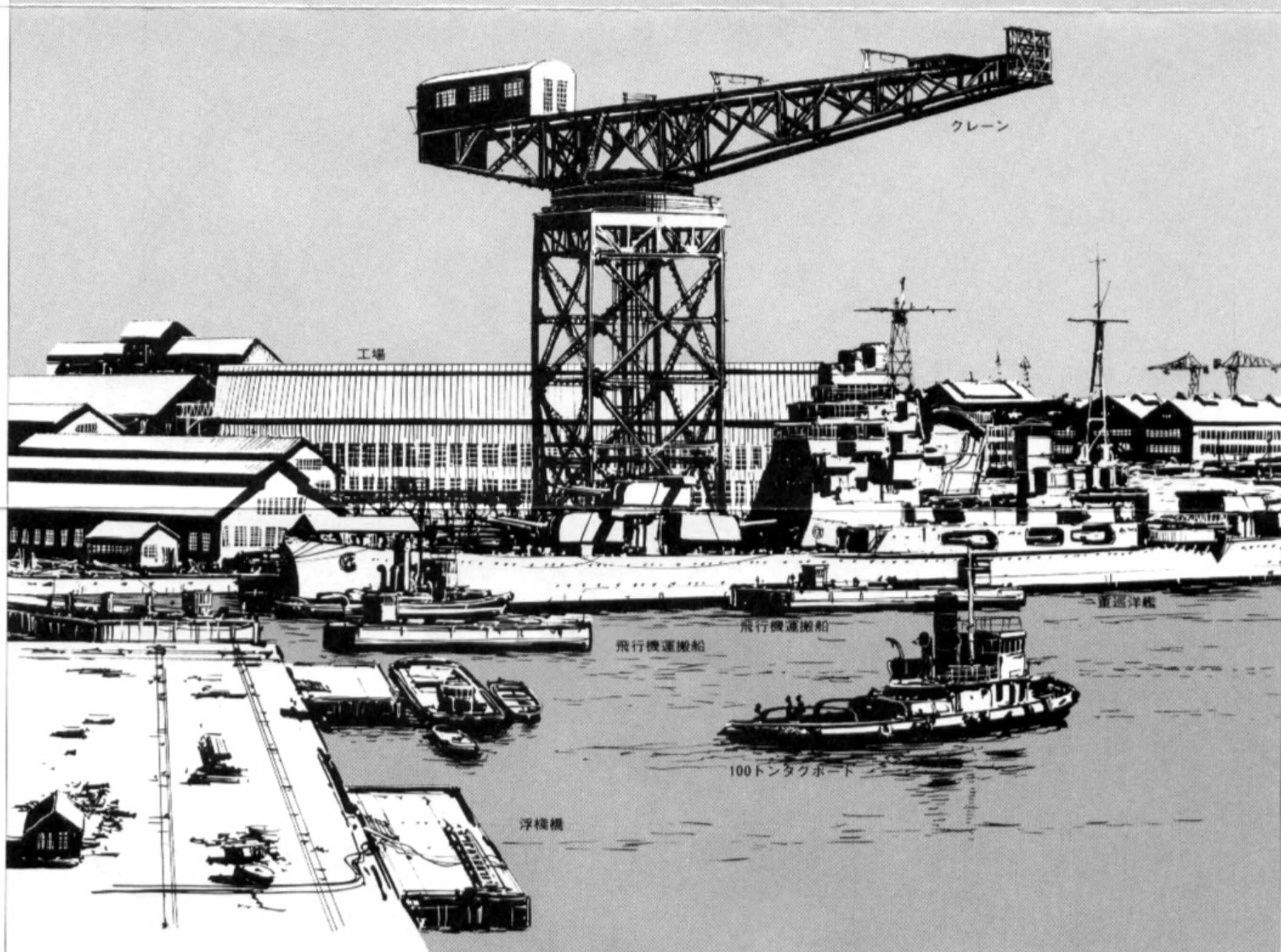
〈油タンク〉(灰色)をベースとして、大戦中には敵機の発見を防ぐため、汚し塗装が施こされたと思われる。

〈浮棧橋〉上面は板張(薄茶色)であり、ボラードは(灰色)で塗られていました。側面はゴム製でコールタール(黒)が塗られていました。

〈ブイ〉錆止塗料(赤茶)で塗られていましたが、大戦中は大半が(灰色)で塗られました。

イラストレーション・上田毅八郎

ウォーターラインシリーズで作る情景

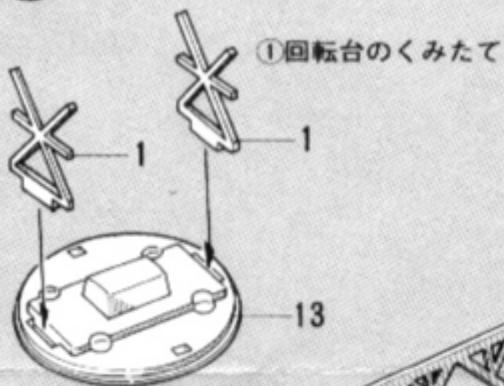




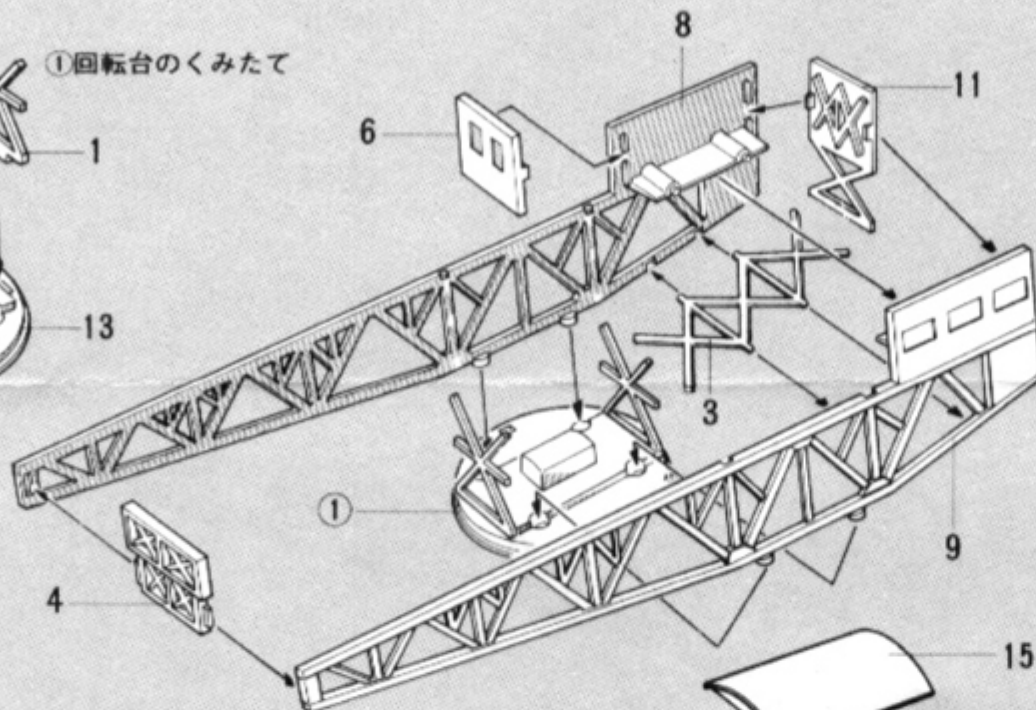
〈作る前にお読みください〉

★ランナー（枝）から部品を切りはなす場合必ずニッパーかナイフ等を使って、ていねいに切りはなして下さい。★接着剤は組立てる部品の両方に少しずつ付けて接着して下さい。★塗装は箱の裏面を参考にして下さい。

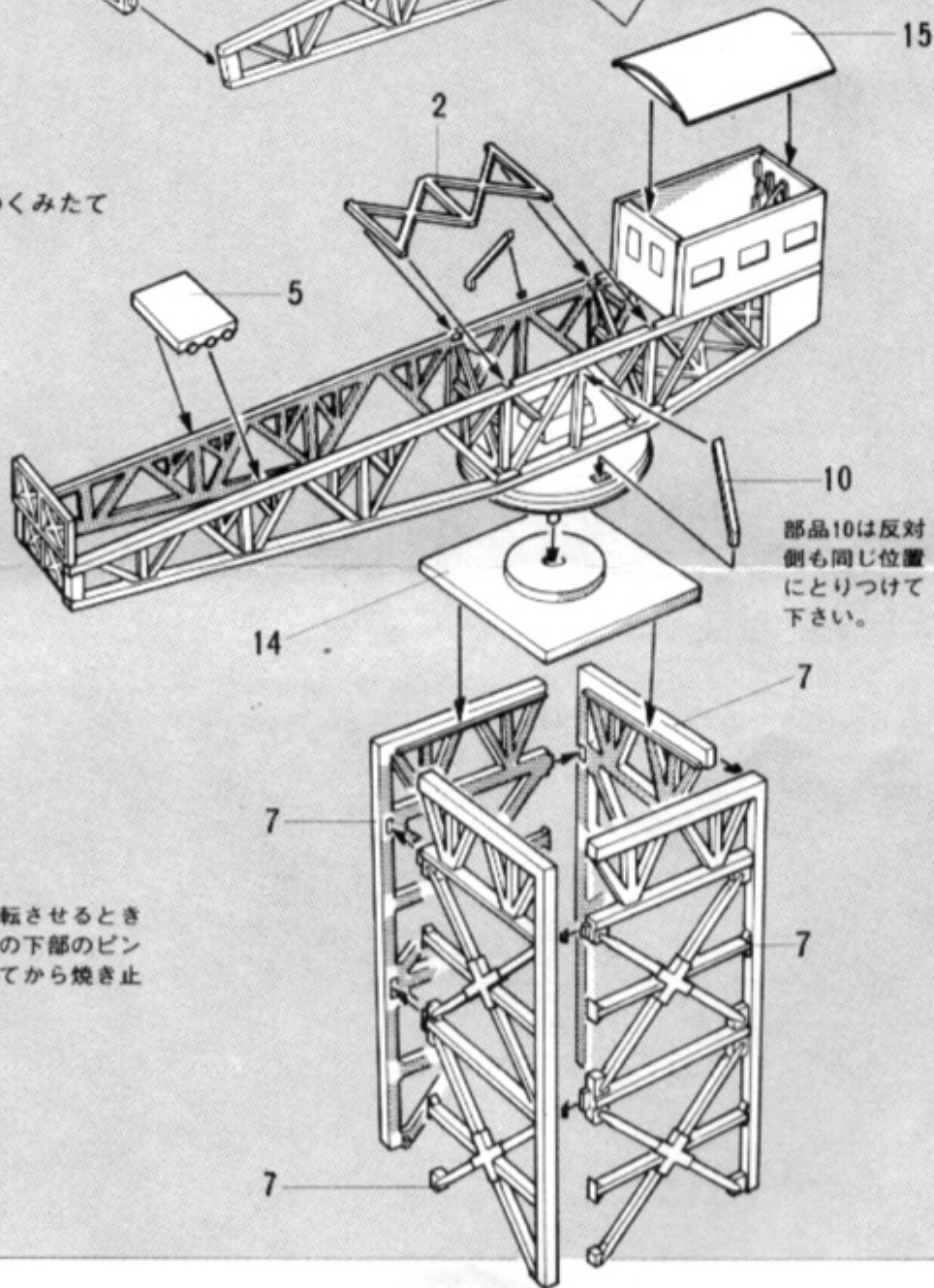
1 〈クレーンの組立て〉



②クレーン上部のくみため

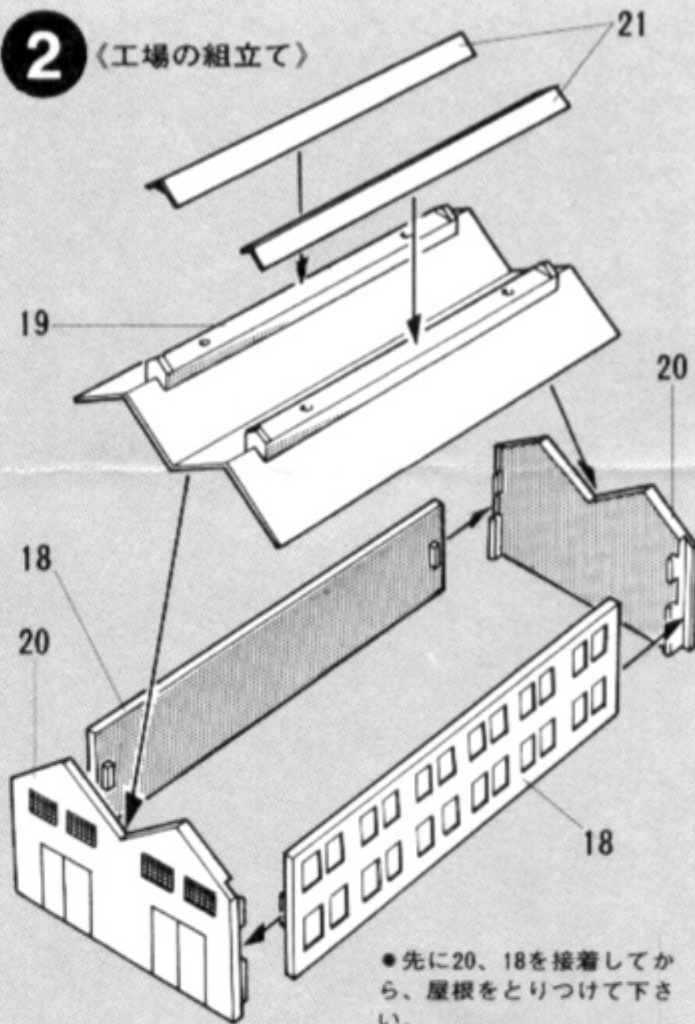


③クレーン全体のくみため

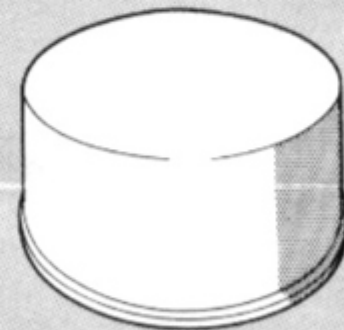


クレーン上部を回転させるときは、部品13回転台の下部のピンを、部品14に通してから焼き止めましょう。

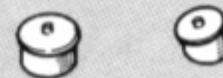
2 〈工場の組立て〉



3 〈油タンク〉



4 〈ブイ〉



5 〈浮桟橋〉

